



香川県防災士会 会報



第 18 号 2014.9

ご無沙汰しております。

今年の夏も、多くの自然災害が発生しました。

今、自分たちに出来ることは何か？

現場に入る人、情報収集する人、後方支援する人、義援金を送る人・・・色々な形の支援があります。

被害の状況や、マスコミの報道によって、多く人が集まる所と、そうではない所。

後者は、まさに南海地震発生時の香川県の姿になるのではと不安を覚えつつ。。。。

コツコツ長く続く活動を目指しましょう。

♪今回は、報告(4件)です♪

＜平成 26 年度学校防災アドバイザー派遣事業＞ 【久保 雅和】

平成 24 年度から継続実施されている香川県教育委員会からの委託事業の学校防災アドバイザー事業が始まった。今年度からは気象、地震に関する防災情報の要望がある場合は、高松地方気象台も参加する事になり、香川大学（技術士会）・香川県防災士会と三機関で協力することとなった。

アドバイザー参加希望者の事前打ち合わせ会が 6 月 11 日香川大学工学部で行われた。打ち合わせ会では、例年通り、その場での回答が不可の場合は持ち帰り後日回答すること等の説明と確認をした。また、これまで 2 年間の経過から、今年度は新たにアドバイザーの評価も学校側からしていただくこととし、アドバイザーのスキルアップをすることになった。

今年度は 39 校 36 回の予定で、すでに半数を実施したが、学校側からの要望は地域との連携や地域や幼・小・中・高の合同防災訓練の仕方等についての要望が多い。各アドバイザーからの報告も、教育委員会に報告されているが、養護学校では初めての試みで父兄と自宅での防災のあり方についての懇談会も設けられ意見交換を行った。

残りの学校についても防災士会はアドバイザーとして頑張っていきましょう。

＜三木町「まんでがん防災トレーニング」＞ 【松岡 太】

6 月 29 日、朝 9 時前から緑のポロシャツを着た 11 人が三木町文化交流プラザに集まりました。今日は三木町主催の「まんでがん防災トレーニング」です。香川県防災士会東讃支部としてデモンストレーションをすることができたいきさつについて書いてみたいと思います。

今年の 3 月、地区の人から大藤神社（地区の小さな祠・荒神さま）の役員就任の依頼がありました。サラリーマン生活で自治会はすべて家内にまかせっきり。フリーになり今までの罪滅ぼしと思い引き



受けましたが、中に入ってみれば課題が山積。自治会長から「全員参加の協議会を開いて皆の意見を吸い上げたい。動員するためには、枕に防災の話のすれば集まってもらえるのでは・・・」とのことで三木町総務課に担当者の派遣依頼をしましたが、これは当然無理なお願い。そこで自分が話しをするので簡条書きの原稿を添削してほしい、と要望。これが今回総務課との付き合いの始まりでした。

内閣府の被害想定（2 次報告）、香川県地震津波被害想定第 4 次公表などをもとに、三木町の被害想定、地区の置かれた状況等、そして三木町独自の地震対策の取り組みの紹介を入れ、最後に防災士会の PR を付け加え原稿を作成（東讃支部勉強会でリハーサルをさせていただきました）。総務課と打ち合わせをする中で、三木町ため池ハザードマップを近々発表しその説明会を予定しているとの情報を聞き

出すことができました。そこで防災士会として是非お手伝いをさせてほしいとお願いしたところ、最初は渋っていましたが、何度か打ち合わせをし、林支部長、香西防災士とも一緒に訪問し1ブースもらうことができ、冒頭の光景になったのです。

「まんでがん防災トレーニング～その時あなたとあなたの家族は？～」と題して行われたイベントは、町長の挨拶のあと産業振興課とその委託会社パスコから「ため池ハザードマップ」の概要と詳細についての説明。香川大学准教授山中先生から「地震時のため池被害」の講演。気象予報士でもある三木町総務課課員川田氏から「天気図の見方について」。その他庁内各課から三木町の防災関連の助成補助についての説明などがありました。我々のブースには、日本防災士会香川県支部の旗、机には家具転倒防止器具や防災士養成講座のチラシなどを並べ、防災・減災の心構えを説明。イベント終了後も、器具を手にとってみたり、質問をされる方も多く関心の高さを感じました。応援で来ていただいた防災士の皆さま、日曜の午前中にもかかわらずご協力いただき大変ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。



ちなみに説明会の観客は600人（主催者発表）、地区懇談会は役員4人、住民28人でした。

※10月25日（土）三木町の「獅子たちの里 三木まんて願」にもブースを出すことになりました※

<防災士スキルアップ研修> 【岡 重範】

平成26年7月19日9時から11時30分 国分寺会館第二会議室において、香川県防災士会東讃支部の林支部長を講師に、会員40数名の参加者で盛大に研修会が開催されました。

「ため池避難マップを作成する地区住民を支援するための防災士スキルアップ研修会」と題して第1回(全2回)に参加しました。私の住んでおります国分寺北部コミュニティセンター管内には10万トン以上のため池が5池あります。高松市よりこの池が決壊した場合の被害想定が発表されております。この研修を受けて地域の皆様にどのように関心を持って頂くか「正しく理解し、正しく怖がり、正しく逃げる」を伝えるのが私達の使命であるとの気持ちを持ち、研修を受けました。

(第1回)安全な避難に資するため池ハザードマップ

- ・香川のため池の特徴は
- ・ため池の役割とは何か（防災上、厄介ものか？）
- ・ため池ハザードマップの防災上の課題を知る！
- ・安全な避難に資するため池ハザードマップとは

県内にあるため池の特徴から始め、弘法大師様が1200年前に満濃池を作られたこと、池は受益者負担が入った事業で作られておること、ため池の数は全国第3位、ため池の密度は全国1位、ため池の

役割等々、県内には10万トン以上のため池が198箇所、全てのため池で被害想定が発表されており(市町によって発表に違いがある)、これからハザードマップに反映されていきます。善通寺市の事例では、ハザードマップ作成条件として、河川は計画規模の豪雨により計画洪水位・ため池は満水・大規模ため池が同時決壊し流下すると説明された。農水省の平成12年度以降に改修工事したため池は、震度5弱までは担保されております。今後想定しておりますL2(南海トラフ最大クラスの地震)では、震度6強~7であります。阪神淡路大震災以降の基準見直しで改修した大規模ため池は、3.11の地震で被害が無かった。ここ15年以後で改修した大規模ため池は、本震では決壊する可能性が低いので逃げる時間があります。文献によると、本震から少なくとも15分以前に堤防の決壊事例はありません。切れた事例では30分位が多い。この様なため池の性質を知ってほしい。すぐには切れないが、危険であることを理解してもらう。堤防から300m位まで下流の滞筋の方は、地震で3~5分揺れたら堤防に異常が見られなくても、後に余震が来た時に決壊するかもわかりませんので即逃げる事が大切と説明を受けた。

ため池決壊による氾濫解析による浸水想定は、あくまでもシミュレーションによるものであり、浸水域に入っていないから、安全であるとは限らない。住民に分かり易い説明が必要である。洪水到達時間の短さを考慮すると、木造家屋倒壊危険区域以外では垂直避難もあるとの事。水深と流速による歩行困難区域、木造家屋倒壊危険区域の説明、安全な避難に資するため池ハザードマップには次の3つの要件がある。ため池ハザードマップ記載の基本情報を明確化、マップ情報に対する住民リスク認知地域格差を是正、新たなリスク対応策の創出(堤体はまだ大丈夫か、異常がみられるのか、すでに切れたのか等の緊急の確認方法が必要)である。ため池ハザードマップは危機管理であり、今までの洪水ハザードマップのような減災の考え方はダメです、ここを切り分けて理解してほしい。以下割愛します、今回は(第2回)ため池ハザードマップを熟知する!と題して・真に必要な情報とは?・情報が無いと安全な避難は無理なの?!・しなやかに、したたかに考えてみよう?!について林支部長をお迎えして勉強会を開催します、県内のため池どれも同じですので、今回都合が悪く受けられなかった皆様も次回の案内がありましたら、是非とも研修を受けて防災活動をして下さい。

最後になりますが、防災を支援する防災士が筆筒に挟まったとか、エアコン室内機の下敷きになったのでは笑い話になります。家具等の固定はお済ですか?十分に注意して頂き、緑の服を着たまま死な無いようにして下さい!との事でした。



この後、内々の研修会であり忌憚のない活発な質疑討論が行われました、充実した日でした。林支部長お疲れ様でした、ありがとうございました。

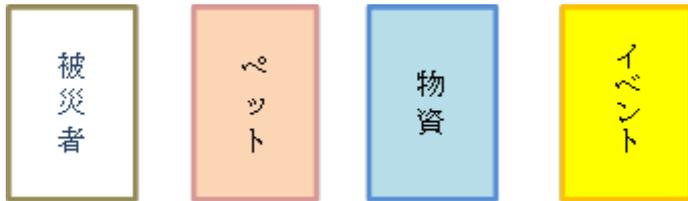
<小学生対象の HUG> 【奥村 里々子】

2014年8月8日 10:00～ 東植田コミュニティセンターにて

女性部会【Lady かがわ】初の依頼です。

先方より、「子ども達に避難所の HUG を体験する機会を作ってもらえないか？」と相談があり、「HUG（避難所運営ゲーム）」を行いました。東植田小学校は、3年前の子供会キャンプで、児童・教職員・保護者・地域住民の協力の下、実際の人での避難所運営を行ったことがあります。

ただ、既存の HUG を小学生対象に行うのは難しく、また理解できないだろうという事で、特別に HUG を作成しました。（Lady かがわお手製 HUG です！）被災者カードは白（名前は琴電の駅名）、イベントカードは黄色、登場する動物はピンクのカードに1匹ずつ印刷、物資はブルーのカードで作成しました。



ゲームを開始するまえに、高橋部長より一通り HUG の説明を行います。HUG カードは通常の方法とは違い、全てのカードを神経衰弱のように机に伏せておきます。

「校長先生より「学校は安全で、避難所として開放します」「まず、被災者の受付を作りましょう」「被災者に立ち入らせないお部屋を決めておきましょう（それはなぜ？）」」と最初に条件を与えます。各班に一人ずつ防災士がつき、校舎内の特別室、トイレを立ち入り禁止に、避難所の体育館に受付、通路が作られるよう、一緒に考えながら進めます。

ゲームは全班同時進行で行い、1班ずつ順番に好きなカード番号を選びます。最初は被災者の白いカードのみを選んでいきます。こちらが言わなくても、「あとで〇〇さんが来るはず」「△△さんと隣がいい」などの希望は覚えておかないと！とメモを用意して書き込み受付に用意した班もありました。ある程度避難者が来たところで、3順目からは被災者カード以外も自由に選びます。「明日、仮設トイレが届きます」→保管場所を確保しないと！「毛布があります。必要なら取りに来てください」→あの人に必要だね、誰が取りに行く？「たばこが吸いたいのですが…」などなど。

それぞれが意見を出し合い、アイデアを出し合い、よりよい方法を考えていきます。みんなで考えるからこそ、一人では気がつかないことも見えてきます。

使用禁止のトイレを使ったために、汚物が詰まってあふれているという内容には、「低学年の子でもお掃除ならできる！」

（最後に 各学年で 自分にできることを おさらいしてみました。低学年はお掃除、中学年は学校内の案内、高学年になると避難所の受付できそう？）

設定として東西南北地区のうち東地区からの避



難者カードを作っていませんでした。高学年の班では、途中から「東地区が全然来ない、なんでや？」と疑問の声が。これこそ、私たちが考えてほしかったことの一つでもありました。今回は災害に合わず、東地区の人たちは安全なのかな？それとも、被害が大きくて道が通れずに避難所まで来られない人がいるのかな？。

ゲームでありながら、子ども達が様々な状況を予想し、知恵を出し合っていました。話し合いを進めるにつれて、グループの一体感も高まっていました。

当日、集まった児童たちは小学1～6年生の計12名です。予想以上に年齢が低くどうなることかと心配しましたが、ゲームが進むにしたがって徐々に楽しそうに、意欲的に取り組んでくれました。

ご協力いただきました東植田コミュニティセンターのみなさん、ありがとうございます。また、このような機会を設けてみたいですね。

<各支部総会開催報告>

- ・東讃支部 平成26年7月20日開催
- ・高松北支部 平成26年8月23日開催
- ・高松南支部 平成26年8月8日開催
- ・高松西支部 平成26年7月27日開催
- ・坂出宇多津支部 平成26年3月10日開催済み
- ・中讃支部 平成26年7月23日開催
- ・西讃支部 平成26年6月15日設立総会開催

今後の行事予定

- 日時未定 气象台とのスキルアップ研修
- 日時未定 「ため池ハザードマップ」第2回目研修会
- 10月19日 善通寺市東部地区自主防災合同訓練（中讃支部対応）
- 11月9日 国分寺北部校区防災訓練（予定）
- 11月29日 川島校区防災訓練（高松南支部対応）

香川県防災士会事務局長：高橋真里

070-5512-2275

（電話でのお問い合わせは、

18時以降でお願いします）

kagawa-bousaishi@hotmail.co.jp